

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	発達教育学部 教育学科音楽教育学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

音楽教育学専攻の教育目標は、大学全体、および発達教育学部の「専門的知識・理解を深めるとともに、幅広い教養と汎用的技能、グローバルな視点を身につける」という「人材養成に関する目的」を踏まえて、卒業後には、教師や指導者として、学校教育、生涯学習、地域活動など、音楽についての深い素養を活かした分野で活躍できる人材の育成を目指している。大学や学部の教育目標との関連性は保たれており、現時点で変更の必要性は生じていない。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

音楽教育学専攻の理念・目的は、「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1「教育目標」に明示されており、その内容は学生には「学習の手引」等を通して、社会に対しては大学のウェブサイトなどで公表されている。学内では、生涯学習のリーダーとして活躍する卒業生に授業の中で講演してもらう機会を設け、学生への周知が行われている。2016年度学生生活実態調査結果の[Q5]「自分の所属する学科・専攻の教育目標や人材養成目標等を知っていますか」に対する本専攻の値(周知度)は25.7%であった。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

専攻の理念・目的が学生に周知され、社会に公表されている。
生涯学習のリーダーとして活躍する卒業生を授業に招聘し、学生に講演する機会を設けている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

2016年度学生生活実態調査における認知率(25.7%)は学内では上位であったものの、決して高い数値ではない。履修ガイダンスやオリエンテーション等を通じて更に周知を広める必要がある。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 個別の視点での入力不要
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 当該専攻の「理念や目的に関する認知率を高める方策」について、「履修ガイダンスやオリエンテーション」で「どのような周知」がなされるべきか。「機会を増やす」と同時にそうした「内容・方法の工夫」も検討していただきたい。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	発達教育学部 教育学科音楽教育学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

音楽教育学専攻では、「日本の伝統音楽、西洋の芸術音楽、そして世界中の多様な音楽が息づいている現代の音楽文化のあり方とその教育について学び、幅広い知見と豊かな感性を身につけること」を教育目標としている。そしてこの教育目標に従い、学位授与の方針を「知識・理解」、「技能・表現」、「態度・志向性」、「統合的能力」の四つの側面から具体的に定め、大学ホームページや「学習の手引」においても明示している。またそれに基づき「幅広い文化的視野で音楽教育を考える」「創作を中心に幅広く音楽を学ぶ」「ピアノを中心に音楽の表現を学ぶ」「声楽を中心に音楽の表現を学ぶ」という四つの履修モデルを掲げ、「学習の手引」に示しており、これら履修モデルの目標は、卒業論文、実技(ピアノ・声楽)と研究報告、作曲と研究報告という卒業の形態とも一致している。

以上のことから、音楽教育学専攻では、教育目標に基づき学位授与の方針を明示しているといえる。また、「学位授与の方針」、大学ウェブサイトや「学習の手引」において広く公表している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

音楽教育学専攻では広く音楽教育に関わる人材を育成するため、実技系科目(ピアノ・声楽・作曲関係)と講義科目(音楽史・日本音楽概論・音楽心理学など)を偏りなく適切に開設している。1年次では基礎的な科目群、2年次では幅広く音楽を学ぶ科目群、3年次ではより専門的な科目群と指導法に関する科目群を開設し、4年次は卒業研究が中心となるように体系的な教育課程を編成している。以上のように音楽教育学専攻の授業科目は適切に開講され、教育課程も体系的に編成されているといえる。またそれらは「学習の手引」等において、音楽教育学専攻の教育目標と授業科目との関係が十分に説明されている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
音楽教育学専攻の演習科目は、まず初年次の「音楽文化基礎演習I・II」で、アカデミック・スキルを活用し、1クラス15人前後の少人数演習による基礎の学びを開始する。続く2年次の「音楽文化研究I・II」、3年次前期の「音楽文化研究III」でより専門的な学びへ、そして3年次後期から個々の学びを更に高度に探究する「音楽教育演習I・II・III」へと体系的に繋がっている。この「音楽教育演習I・II・III」は1クラス5人～8人程度のゼミであり、極めて少人数による懇切丁寧な指導が施されている。またその他の科目としては1年次より「音楽理論2」「ピアノ1」「声楽1」で専門教育そのものも開始する。2年次からは一般的な音楽の専門科目に加え、音楽教育に関わる科目の開講も開始され、3年次では音楽教育関連の科目が多様になる。これらの学びを通して4年間で音楽と音楽教育に関して学士課程に相応しい専門性が身につく教育課程となっている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
教育内容は、講義、少人数の演習、少人数編成のゼミを開講し、卒業研究を見据えながら1回生から学びを深めるカリキュラムを用意している。同時に、極めて少人数のクラスで行われるピアノや声楽の授業では、他者の演奏や解釈を聴き主体的に授業に参加する形式を取り入れている。オフィスアワーによる学習指導に関しては、制度の周知徹底もなされ、対面、メールなど学生個々にあった相談の仕方が可能となっている、同時に専攻独自に始めた専攻内FD活動が学生の中にも定着し、回生を超えた交流会の開催や、学生と教員の交流会の開催により、学生生活のあらゆる面をサポートすることのできる体制が整っていると考えられる。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 専門科目における授業への満足度については、授業アンケートQ10「全体としてこの授業に満足できた。」の問いに対し、「5非常にそう思う」「4そう思う」と回答した割合が、85.7%(前期)／85.8%(後期)と高い数値が示された。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

厳格な成績評価のために、本専攻では、シラバス提出時に非常勤講師を含むすべての教員の授業を対象に、評価基準が明示されているかどうか確認を行っている。明示されていないシラバスの担当者に対しては、入稿前に記入を促し再提出を依頼している。

音楽教育学専攻の取得免許状や科目の特徴から、1つの授業を複数の教員で担当をすることも多く、それぞれにレポートを求められることから、「試験以外のレポートが多い」と感じる学生の割合が多い。しかしながらレポート課題は必要なことでもあり、今後はシラバスを利用した課題の出し方などの可能性を含み専攻で検討をしていきたい。

単位認定については、シラバスに、学位授与については、「学位授与の方針」(学習の手引)において、基準を明らかにし、厳格な成績評価に努めている。提出された学生の成績は、教務課・教務委員会によって、確認・点検され、適切に行われている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

・シラバスを入稿前に確認し、わかりにくさや、不備について専攻全体で改善している。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

音楽教育学専攻における卒業研究では、「実技(ピアノ・声楽・作曲)と研究報告」あるいは「卒業論文」という選択肢があるが、これらには研究報告や卒業論文の字数、実技の演奏時間等についての明確な学位授与に関する判定基準もあり、また実技および作曲は公開で複数教員によって審査される。なお、卒業研究については、中間発表会(7月)や複数教員による口頭試問を経て卒論発表会(2月)で公開され評価されるが、学生に対してはこれらの手順を配布文書で周知している。また卒業研究の成果は、『卒業論文・研究報告抄録』としてまとめられ、発表・公開されている。

以上のような厳格な審査を経た後、学位授与基準に基づき学部教授会において学位授与(卒業認定)手続きを行っている。「学則」や「履修要項」に定められた在学年数(4年以上)と、共通領域、専門領域、自由・発展領域の合計で132単位以上を修得しているかを確認・審議し、すべての卒業要件を満たして合格と判断された者のみに学位が授与される。またこのような手続きは、学生にも周知されており、学習成果は適切に把握、評価されている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

・多様なスタイルの卒業研究[「実技(ピアノ・声楽・作曲)と研究報告」あるいは「卒業論文」]を行う学生に対応し、適切な卒業研究の指導を行っている。
・研究に対する評価においても、客観的かつ厳格な審査を経てその成果を公開発表するなど、適切な形を採っている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

音楽教育学専攻における定期的な点検・検証としては、次年度の科目を編成し、担当者を決定する時期に、専攻会議で科目や担当者、開講クラス数等を確認し、これを通して教育課程の編成・実施に関する検証を行っていることが挙げられる。その結果をもとに、新年度の「大学案内」への原稿依頼が、議論の契機となり改善・向上を促すものとなっている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

次年度の科目を編成し、担当者を決定する時期に、専攻会議において教育課程の編成・実施に関する検証を行っている。
また「授業アンケート」集計結果によると、音楽教育学専門科目の学生の満足度が、前期、後期共に大学平均を上回っており、効果が上がっていることがうかがえる。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

目標が具体的に設定されており、達成のための施策が行われていることは評価できます。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	発達教育学部 教育学科音楽教育学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

音楽教育学専攻は、入学者受け入れ方針として、「音楽的な表現力を高め、多様な音楽をその背景にある文化や歴史とともに追求したい学生」「学校教育や生涯学習社会の中で主体的に音楽の教育や指導にかかわっていききたい学生」を求めていることを明示し、そのうえで公募制推薦入試、一般選抜、社会人特別選抜、一般編入学試験における具体的な選抜方法も明示している。また学生の受け入れにあたっては、音楽教育学専攻の学修に必要な音楽的技能や知識を備えているかを判断する必要性があり、多面的な評価が行える実技試験(ピアノ、声楽、任意の楽器、作曲、小論文)が課されているが、こうした事柄もすべて『大学案内』や大学ホームページ、および『入試ガイド』において明確に示されている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

学生の受け入れ方針を明確に定めて、入試制度別に明示している。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

特記すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

特記すべき事項なし。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

音楽教育学専攻志願者への学生募集方法については、京都女子大学ホームページや、『入試ガイド2017』で明示しているが、学科試験に加え5種類の方式から選択可能な音楽実技試験を取り入れている。その詳細はI方式[ピアノ・声楽・任意の楽器から二つを選択]、II方式[ピアノ+新曲視唱]、III方式[声楽+ピアノ]、IV方式[小論文+音楽基礎実技]、V方式[作曲+音楽基礎実技]というもので、それぞれ個別の実技配点は若干異なるものの音楽実技試験の総点は全て150点満点(一般入試前期B方式、および後期入試では300点満点)で統一されている。それぞれの方式は全ての受験生が自らの実力を最大限に発揮できるような選択肢が適切に設定されており、きわめて公正な学生募集を行っているといえる。また試験の採点に関しても全ての方式において必ず二人以上の教員が採点するシステムを導入し、実技試験終了後には採点者を含む音楽教育学専攻全教員で採点に関して最終確認を行い、偏りのない公正な採点の実施が履行されている。今後更に音楽実技に関する表現の幅を広げられるように、現在学科試験に加え5種類の方式から選択可能にしている実技試験に加え、[管楽器+音楽基礎実技]を取り入れ、受験生が自らの実力を発揮できるような選択肢を準備している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

音楽実技試験に選択可能な5種類の方式を設定している。

音楽実技試験では、全ての方式において複数の教員が採点に関わり、採点終了後に採点者を含む音楽教育学専攻全教員で採点の確認を行っている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

今後更に音楽実技に関する表現の幅を広げられるように、現在学科試験に加え5種類の方式から選択可能にしている実技試験に加え、[管楽器+音楽基礎実技]を取り入れ、受験生が自らの実力を発揮できるような選択肢を準備している。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

特記すべき事項なし。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 音楽教育学専攻の実技試験方式の妥当性については、専攻会議等で毎年確認を行っている。現在のところ大きく変更する予定はない。実技試験終了後にも必ず採点者を含む音楽教育学専攻全教員で採点結果の確認を行っており、自らの評価の妥当性をチェックする機会を設けている。実技試験方式の妥当性については、専攻会議等で随時議論はされているが、現在のところ大きく変更する予定はない。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 音楽実技試験終了後に採点者を含む音楽教育学専攻全教員で採点結果のチェックを行い、その妥当性を確認している。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 特記すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 特記すべき事項なし。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 目標が具体的に設定されており、達成のための施策が行われていることは評価できます。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	発達教育学部 教育学科音楽教育学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

音楽教育学専攻においては、ピアノ・声楽・作曲・音楽学の各領域をカバーするような教員編制を「京都女子大学教員資格審査規程」に基づき構成しており、それぞれの専門領域において優れた知識と経験を有し、教育研究並びに運営に熱意がある者を求める教員像として明らかにしている。本専攻の専任教員数は8名で、これは設置基準上の必要専任教員数の3名を上回る人数であるが、それによって専攻所属のピアノや声楽の複数教員の配置が可能となり、よりきめ細かい指導体制が組めるようになった。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

・求める教員像および各領域をカバーする教員編制が明確に定められている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

・特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

音楽教育学専攻の平成29(2017)年度における専任教員数は教授5名、准教授3名であり、大学設置基準の必要教員数を十分に満たしている。年齢構成は、40代が3名、50代が4名、60代が1名となっており、非常にバランスが取れている。また、本専攻では、中学校・高等学校の教員養成や広く生涯教育の場での音楽指導者育成を目的に教育課程を編成し、各分野(ピアノ・声楽・作曲・音楽学)の教員が専門領域をカバーしながら各種の授業を担当している。授業科目と担当教員の適合性については、カリキュラム改訂時の科目担当者決定の際、業績等を検討し妥当性を判断している。また、教員組織とそれぞれの研究分野については、大学案内や大学ウェブサイトに公表されている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

・編制方針に沿った教員組織が整備されている。
・授業科目と担当教員の適合性について、適切な判断が行われている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

・特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

教員の募集・採用・昇任については、「京都女子大学教員資格審査規程」および「内規」に明示された基準や手続きに則って行われている。教員の募集・採用に関しては、専攻で決定した担当授業や職位などが全学の「常設人事委員会」で承認されると、専攻内外の教員を含む「選考委員会」がまず設置される。そこで募集方法を「公募」あるいは「学内公募」のいずれかに決め、最終的には選考委員会が作成した最終候補者の資格審査報告書を元に教授会での審議をもって決定される。特に実技科目(ピアノ・声楽)の教員採用に関しては、音楽という科目の特性から、面接の他に実技の披露や模擬授業などによってその適性を判断するなど、入念な人事を行っている。また昇任に関しては、当事者の申し出が全学の「常設人事委員会」で承認されると、専攻内外の教員を含む「選考委員会」が設置され、そこで研究業績を審査する。そして最終的には選考委員会の審査報告書を元に教授会での審議をもって決定される。以上のように、教員の募集・採用・昇任は適切に行われている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

・教員の募集・採用・昇任に関しては「京都女子大学教員資格審査規程」規程および「内規」に則って、手続きの方法が明確化されている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

・昇任に関わる研究業績の明確な基準やカウント方法が定められていないため、早急に各領域・分野ごとの基準を明文化することを目指す。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

教員の教育研究活動については、随時更新、又は少なくとも一年毎に更新される大学ホームページの「教員業績データベース」の研究業績で明らかにされており、自己点検・評価委員によって点検・確認が行われている。毎学期末に実施されている「授業アンケート」は教育活動の評価手段としてFDの中心的な役割を果たし、その結果に基づく教員の所見の作成・公開は有効に機能していると言える。FD推進委員からは、専攻会議に於いて随時報告や問題提起があり、全学のFD研修会への本専攻教員の参加率も高い。

また、2016年度からは「京都女子大学教員業績評価に関する規程」に基づき、前年度業績の評価を行い、学部長および学長による評価を受けて、改善活動等にも取り組んでいる。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

・研究業績が毎年公開され、自己点検・評価委員によって点検・確認が行われている。
・「授業アンケート」に対する所見の作成により、教員一人ひとりが課題を見つけ、自らの授業を省みて改善する努力をしている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

・授業評価などによる学生の意見が授業改善に十分反映されているとは言えない。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
本専攻では、毎年度実施する自己点検・評価のほか、改組等に伴うカリキュラム検討の機会に合わせて教員組織の適切性について随時検討している。また、必要に応じて公募採用人事案を策定する可能性を打ち出している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 ・特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 ・特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)
問題点が的確に認識されて、改善に向けて適切な対応がなされていると評価できます。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見